

令和6年度 学力向上指導改善プラン

武庫小学校長 大向 勲

学校教育目標		未来を生き抜く力と健やかな体の育成		4月		2~3月	
推進主体		管理職と学力向上担当を中心に 学力向上推進委員会を設置		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
							評価
学 力 の 状 況	全国学 力・学習 状況調 査結果 の状況 (国語、 算数・数 学に関 する質 問調査 の結果 も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み取って題意を把握し、自分の考えを書いたり、理由を述べたりすることに課題がある。(経年) 人の前で話すときの話し方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読解力や自分の考えを構築する力を身につけさせるとともに、書きに対する苦手意識を軽減させる。 〇時と場合に応じた話し方を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「読むこと」領域について、問題形式が記述式の設問における正答率を70%以上にする。 〇教室や放課において、相手に分かりやすく伝わるような話し方、場に応じた声の大きさをできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇朝読書の時間を効果的に活用し、読書習慣を身につけさせる。 〇書く学習においては、iPadを活用し、書字に苦手意識を持つ児童も書きで表現する力を高められるようにする。 〇低学年から筋道を立てて説明する指導を行い、ペアワークや小グループの交流など自分の考えを伝える場を多く設ける。 〇授業において、根拠をもとに考えたり説明したりすることを意識させる。 	
		算数 数学	<ul style="list-style-type: none"> 九九が定着できていない児童いる。(経年) 自分の考えを言葉や図、式で説明することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇九九や四則計算といった基礎的基本的な力を定着させる。 〇言葉や図、式を使って自分の考えを説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇四則計算の定着に向け、ミライシードのドリルパークを積極的に活用していく。 〇低学年のうち九九を定着させられるよう、放課後のひょうごがんだりタイムを2年生に向けておこなう。 〇授業において、関係図・線分図・数直線などの図を活用し、基準量・比較量を図に表してから立式できるようにする。 〇自分の考えを説明させるときは、式中の数字の単位を意識させたり、式中の数字と図を結び付けて説明させたりする。 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 記述形式の問題において、無回答で提出する児童が各クラスに数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇各教科の理解を促すために、学習習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇単元テストにおいて、あきらめない前向きな姿勢で取り組み、無回答で提出する児童の割合を0に近づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇ユニバーサルデザインの視点で授業を構築し、すべての児童が学習に前向きに取り組めるよう研修を行う。 〇家庭学習の手引を全児童に配布し、使い方を指導する。 		
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 授業中、姿勢を保持することが難しい児童が各クラスに数名いる。 みんなの前で自分の考えを積極的に話す児童が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇すべての教育活動の中に「からだづくり」を位置づけ、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 〇のびのびと自分を表現できるクラスづくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校評価における「主体的に学習に取り組む」項目の評価において「できていない」という回答を5%以下にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇キッピー体操、リズム編織を継続的に行うことで体幹を鍛え、学習習慣を身につけやすいから育てる。 〇思いを出し合う、受けとめ合うことを大切に考え、全ての児童が安心感をもって表現し合えるクラスづくりを進める。 		
学 力 向 上 に 関 連 する 学 習 状 況	全国学力・学習状況調査の質問の状況	<ul style="list-style-type: none"> 自尊心感情が低く、先生から認めてもらっていないと感じている児童が少なからずいる。 ゲームやタブレットの使用時間が長時間に及んだり、睡眠時間が短く朝起きられなかったり、生活習慣が身につけていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇自尊心感情を高める取り組みとネットモラルを含めた情報リテラシーの向上を図る取り組みを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇ゲームやタブレットの使用時間を減少させ、早めの就寝により生活習慣を身につけさせる。 〇自尊心感情に関わる項目において、肯定的な回答を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇道徳、生活指導、外部講師の招聘をバランスよく行い、ネットモラルを身につけさせる。 〇児童会や児童会など特別活動を中心に、児童が活躍する場を設定し、「達成感」「有用感」「安心感」を感じられるようにする。 		
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> 自分には良いところがないと答えている児童が33%いる。 読書習慣が身につけていない児童が63%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇児童の自尊心感情、自己有用感を高める。 〇読書習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇児童アンケートの「自分にいい所があるか」という設問において、否定的な回答を20%以下にする。 〇児童アンケートの「家で本を読みますか」という設問において、肯定的な回答を50%以上に増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇自尊心感情を築く「達成感」「有用感」「安心感」を教師が常に意識し、学級経営、授業づくりにあたる。 〇家庭読書、朝読書の取り組みの継続。 〇若狭団体やお祝いの放送などを利用し、図書委員会や図書ボランティアの活動を充実させる。 〇学校図書館司書と担任が連携し、常に身近に本がある状態を作る。 		
授 業 改 善	・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士の対話の場面において、自分の考えを表出する力に課題が見られる。 〇体育において、ふり返りをオウリングで提出させたり記録した試合動画をもとに次の作戦を考えさせたりした。 〇音楽において、オウリングを活用して動画の配信や、楽譜の配布などを行った。 〇特別活動において、動画の作成やプレゼン発表など効果的に使用した。 〇情報モラルと著作権に関するリテラシーについては、定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇質問紙の「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのITをどの程度使いましたか」という問いに対し、肯定的回答の割合を昨年度より3ポイント上昇させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇グループワークやペアワークなどの活動の際ICTを活用することで、どの児童においても自分の考えを表出しやすいようにする。 〇ノートやホワイトボードに加えて、キーノート等それに代わるアプリを用いて自分の考えを交流させる機会を意図的に授業に取り入れる。 〇情報モラルと著作権に関する授業を、各学年に応じた内容、タイミングで行うことで、情報リテラシー定着させていく。 		
	・ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)						
校 内 研 究 ・ 研 修	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> 〇授業公開、実践交流会を経て、目指すべき児童を育てる授業づくりについて考え、体育科における授業の流れや教師が抑えるべき重点を職員間で共有した。 〇「感じる・分かる・できる」ようになるための手立てについて、さらに個々の教師の理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇自ら考え、認め合い、学び合い、高め合う子どもを目指して研究を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇単元を通した学習計画や授業のめあてを立て、見直しを持ち、それに沿って学習を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇単元計画やめあてを見える化し、見直しを子どもたちと共有する。 〇一人一授業公開とし、お互いに学び合える環境をつくる。 〇「感じる・わかる・できる」ための手立てについて、研究推進委員会を中心に研修を進める。 		
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> 〇年3回の全体研修会、各学年での1人1公開授業、全職員の実践記録の交流会等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に応じた支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇児童理解に関わる校内研修会や授業実践の交流会を定期的に関催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇定期的な研修会の開催とともに必要に応じてケース会議を持ち、児童理解や支援方法、支援体制を検討する。 〇体育科における任意参加の研修会を、研究推進委員会が計画して行う。 		
家 庭 ・ 校 種 間 連 携	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 〇保護者アンケートの「学校は、見守り隊やボランティアなど保護者・地域と協力、連携した取り組みを進めている」という設問では、肯定的な回答が90%であった。 〇子どもアンケートで「宿題をあまりしていない」と答えた児童が10%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇自分が、地域の人たちに支えられていることを実感できるようにする。 〇家庭における学習習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇子どもアンケートの「ちいさな方へ支えられていることをしていますか」という項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。 〇保護者アンケートの「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「家庭学習の手引き」を配布し、学級懇談会や学校だより、学年だより等で継続的に声掛けすることで活用させていく。 〇児童の生活背景を十分に把握したうえで児童理解に努めるとともに、家庭学習や適切な生活習慣などを身に付けられるように保護者・地域との連携を大切にしている。 		
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 〇オープンスクールの参観、中学校の教師による出前授業(社会科)が実施された。また、生活指導担当教員での小中共同研修や特別支援学級の交流会が開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇小・中の連携を行い、スムーズな校種間の接続を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇児童が抱く、中学校生活に対する不安を少しでも軽減させ、全ての児童が安心して笑顔で進学しているようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇3学期に中学校の授業を体験させることで、中学校への不安感を軽減させる。 〇3学期に中学校の授業を体験させることで、中学校への不安感を軽減させる。 〇3学期に中学校の授業を体験させることで、中学校への不安感を軽減させる。 〇3学期に中学校の授業を体験させることで、中学校への不安感を軽減させる。 		